

健康の公平性に関するタケダの見解

概要

健康の公平性は、得られうる最大限の健康とウェルビーイングをすべての人が得られたときに初めて達成されるものです¹。すべての人には、その社会的立場や社会的に定められた状況に関係なく、最大限の健康を得るための公平で公正な機会を獲得する権利があります²。240年以上にわたり患者さんを第一に考えてきたグローバル企業として、タケダはすべての人々が平等に医療を受けられる環境づくりに真摯に取り組んでいます。そして、健康格差は社会全体で早急に対処する必要があること、そして当社の事業全体にとっても影響が大きなものであることを理解しています。この問題には複雑さが伴いますが、その複雑さに対応するため、タケダは世界に展開する自社の能力とリソースを活かし、また中核拠点を設置するアプローチを用いて、タケダのバリューチェーン全体に健康の公平性のための活動を組み込んでいます。このアプローチを通じて、私たちは自社の革新的な医薬品を、それらを必要とするより多くの人々やコミュニティに届けるための体制を整えているのです。

背景

健康格差とは、地球規模で、特定の集団や国の間に見られる不平等かつ回避可能な健康上の格差のことです³。これは、さまざまな要因が絡み合う問題であり、個人の健康に影響を及ぼすだけでなく、事業や行政、その他の活動、そして広くは社会全体にまで影響を及ぼす可能性を秘めています。

これは本質的にグローバルな問題ですが、その影響が現われる形もさまざまであれば、現われる場所もさまざまです。例えば、健康格差によるコストはEUの年間GDPの1.4%に相当するとの調査結果もあります。これは欧州の年間防衛費とほぼ同額ということになります⁴。またアフリカでは健康障害や早死によるコストがおよそ3兆ドルに及び⁵、一方で米国では健康格差のコストが年間3,200億ドルとなっています⁶。

健康格差は医療だけに関係するものではありません。調査によると、個人の健康全体に占める医療の割合は約20%程度とのことです。残りの80%は、その人が生まれ、成長し、学び、働き、暮らし、慈しみ、年をとっていく場所によって決まります⁷。こうした医療とは関係のない条件は一般的に、健康の社会決定要因と呼ばれています。こうした要因には、経済的安定性、質の高い教育、ヘルスケア、近隣の環境および社会的コミュニティも含まれます⁸。これらの要因は、健康、暮らし、生活の質(QOL)にとって、プラスにもマイナスにも、さまざまな影響を与えうるものです⁹。また、社会的、経済的、環境的に不利な立場にある場合と関係の深い特定のタイプの健康格差は非常に大きなものですが、そうした大きな健康格差にも、これら健康の社会決定要因が関係しています¹⁰。

健康の格差および不平等はグローバルな問題であるため、官民両セクターに加え、非政府組織(NGO)も

協力して、それぞれの強みとリソースを活かして、この問題に対応していくことになります。そうして社会が力を合わせることで、人々が必要とする医療、そして望む医療にアクセスできる、より包括的なヘルスケア環境へと、そして最終的にはより健康で平等な世界へと、近づくことができるのです。

意味のある変革は会社レベルでの取り組みから始まると、私たちは認識しています。また、次の世代に渡したい世界をつくるには、これまで以上の切迫感と責任感が求められることも理解しています。

タケダの見解

バリューベースで研究開発型のバイオ医薬品企業として、タケダは、科学の力で革新的な医薬品を創出すること、そして世界中の誰もが平等に医薬品を利用できる環境を迅速につくることに強い決意で臨んでいます。タケダには、誠実、公正、正直、不屈という要素で構成されたタケダイズムという価値観があります。この価値観は、「1. 患者さんに寄り添い (Patient) 2. 人々と信頼関係を築き (Trust) 3. 社会的評価を向上させ (Reputation) 4. 事業を発展させる (Business)」という優先順位に沿って行動することで実践されます。

世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献するという私たちの存在意義 (パーパス) を具現化し続けていくには、研究開発から始まり、製造、医薬品アクセス戦略、グローバル CSR プログラム、パートナーシップに至るまで、私たちのグローバルバリューチェーンのすべての側面に健康の公平性を浸透させていく必要があります。

この浸透を促進するため、2020 年には中核拠点として「タケダ・ヘルスエクイティ & ペイシェント・アフェアーズ (HEPA)」を立ち上げました。HEPA は研究活動とアクセス活動をつなぐ橋渡し役となるもので、ここから提供されるサービスやプログラム、フレームワークを活用して、タケダは健康格差を解消するための持続可能な物理的インフラと知的インフラを構築しようとしています。

こうしたアプローチは、タケダの革新的な医薬品や治療法をより多くの人々やコミュニティに、それらが必要とときに、必要とされる方法でお届けしようとする私たちにとって、大きな強みになるものです。ここからは、タケダのバリューチェーンに健康の公平性を浸透させる取り組みの一部を紹介します。

研究開発全体に健康の公平性という視点を取り入れる

医薬品を利用し、治療を受けられる患者さんを世界中で増やしていくためには、コミュニティとの信頼関係の構築が不可欠です。その信頼関係を構築し、コミュニティの健康格差に取り組むための大きなステップとして、タケダでは、臨床試験における多様性を広げるとともに、臨床試験への参加のしやすさも確保しようとしています。現在は、社内の体制と臨床試験の実施計画書を強化しているところです。すでに、臨床試験のガイドラインを 34 の言語に翻訳し、臨床研究の計画策定の際に多様性、公平性、包括性のプロセスをどのように組み込むかを説明した臨床試験の多様性「プレイブック」も作成しました。

臨床試験における研究と参加者の多様性を促進するための新しい施策も次々に発足させています。個人やコミュニティは実にさまざまです。その多様な人々やコミュニティに医薬品がどのように影響するのかをより深く理解できたなら、それは患者さんの多様なニーズに合う医薬品を開発するための私たちの知識になり、強みになります。私たちはまた、世界中の患者さんや患者さんの支援グループ、医療従事者、看護師、その他の主要なステークホルダーからさまざまな意見を集め、創薬から販売に至るまでの患者さんの具体的な歩みをより深く理解しようとしています。

こうした考え方と取り組みは、社内でも、患者さんとの関わりの中でも、多様性、公平性、包括性（DE&I）を促進していこうとするタケダの強い決意と一致しています。さらに、私たちが臨床試験やその他の研究開発の計画を策定する際には、これらの臨床上配慮すべき事項を重要な情報として考慮していきます。こうした取り組みにより、ヘルスケア全体の流れがより包括的になるだけでなく、世界中の患者さんやその他の主要なステークホルダーとの信頼関係も強くなり、当社の社会的評価も向上するものと、私たちは強く信じています。

医薬品の製造を通して持続可能な健康の公平性を支える

タケダは製品の供給における質の高さと信頼性の確保に努めています。需要予想と価値観に沿って医薬品を安定的に製造し、供給することを常に重視し、これを通して世界中の患者さんやコミュニティのニーズに応えようとしています。当社のサプライチェーンおよび製造の規定書も、世界のウェルビーイングに貢献し、次の世代により公平な社会を引き継ぐことを意識して作成されています。

気候変動は人類が直面している最大の脅威の一つであり、世界的な健康上の緊急課題になっています。その影響は、医療資源の乏しい地域に特に大きく及んでおり、移住や移民を余儀なくされる、食糧を確保できない、経済が不安定になるといった状況を生み出すことで、健康格差を長引かせる結果に至っています。そうしたなか、私たちは患者さんの健康に寄与するため、環境負荷を軽減し、公衆衛生の改善に持続可能なソリューションをもたらし、仲間や戦略的パートナーと協力して責任あるイノベーションで地球環境を守るべく、迅速に活動を進めています。タケダの製造および供給活動は、環境面で持続可能であることを中心に構成されており、これにより患者さんやコミュニティが得られうる最大限の健康を得られるような環境をつくっていこうとしています。「すべての患者さんのために」「ともに働く仲間のために」「いのちを育む地球のために」という私たちの約束があるからこそ、持続可能な健康の公平性を実現するための正しい道を選択できるのです。

医薬品アクセス戦略に健康の公平性という視点を取り入れる

世界の人口の半数以上が基本的な医療サービスを受けられておらず、毎年 1 億人近い人々が医療費の自己負担額の高さにより極度の貧困状態に陥っています¹¹。さらに世界には、医薬品を利用できない人がまだ 20 億人以上おり、低・中所得国では疾病による負担が極めて高い状態にあることも少なくありません¹²。

タケダでは、誰もが必要な医療や医薬品を利用する権利を持っていると考えています。私たちは、医薬品アクセスのための戦略とアプローチを、個々の患者さんが持つさまざまなニーズを踏まえて構築しています。ここでいうアクセスとは、タケダの場合、創薬の段階から始まり、発売を経て、製品のライフサイクル管理にまで及びます。

このアプローチを支えるため、タケダではさまざまな施策を実施しています。慈善アクセス（Charitable Access）プログラム、承認前早期アクセス（Pre-Approval and Early Access）プログラム、段階的な価格設定モデル、価値に基づく価格調整、患者支援プログラムもその一環で、これらを通して、患者さんが必要なときに必要な場所で医薬品を利用できる環境を整えようとしています。例えば、価格設定においては、国内総生産（GDP）や医療制度の成熟度、自己負担額、ワクチンや希少疾患をカバーする政策など、重要な経済的要因に基づいて、各国をグループ化しています。そうすることで、当社製品の価格を世界全体で調整し、できるだけ多くの患者さんに医薬品を利用してもらおうとしているのです。詳しくは、[医薬品アクセス](#)、[グローバル価格設定](#)、[価値に基づく医療（バリューベースヘルスケア）](#)に関するタケダの見解をご覧ください。

フィランソロピー活動とパートナーシップを通じて健康の公平性に取り組む

タケダではフィランソロピー活動として[グローバル CSR プログラム](#)を立ち上げ、これを通じて、途上国・新興国における疾病予防、ヘルスワーカーのトレーニング、サプライチェーンの強化、質の高い診断と治療へのアクセス改善に向けた取り組みを支援しています。そのなかでは、グローバルヘルスの課題に対し革新的かつ永続的な解決方法をもたらしてきた、確かな実績を持つ、世界的な団体や NGO を戦略的に特定しています。エチオピア、インドネシア、パキスタンで女性を中心に治療や臨床トレーニングを受けやすい環境をつくることを目指して活動している Ipas との提携も、その一例です。

私たちは、健康の公平性に寄与する革新的な活動やパートナーを世界中で探しています。健康の公平性を推進していくには、私たちと同じ志を持つ公共セクターや民間セクター、NGO と協力していくことが不可欠であると信じているからです。こうしたパートナーシップがあれば、それぞれの資源、民間の知識、政府の知識を一つにまとめ、それぞれが協調して社会的インパクトを生み出すことができるはずです。例えば、地域の能力を向上させてコミュニティレベルのニーズに応えられるようにすることも、健康の公平性を促進する私たちの取り組みの一つです。世界各地のコミュニティで健康の公平性を高めていこうとするタケダの取り組みの一部を以下に紹介します。

- 患者さんが経験するすべての過程において患者さんがより良いケアが受けられるよう、知識を共有するプログラムを通じて、世界中のコミュニティで、健康に関する研究や、技術力、科学力、さらには医療の提供システムの質を高められるよう、活動を行っています¹³。
- 革新的かつ永続的な解決方法で世界の医療問題に取り組んでいる NGO や大学、その他の機関と、官民などのセクターや地域を問わず、積極的に協力しています。こうしたパートナーシップを通じて、医療従事者や研究者がそれぞれのコミュニティで健康格差の解消に取り組める力を付け、未来に向けて持続可能で他に頼らなくてもよい体制を構築できるよう、支援しています。

まとめ

タケダは、私たちの価値観と中核拠点を活用したアプローチを基盤として、バリューチェーン全体に健康の公平性を浸透させることで、自社の革新的な医薬品と治療法をそれらを必要とするより多くの

人々やコミュニティにお届けしようとしています。その姿勢は、ダボスで開催された 2023 年世界経済フォーラムで「Global Health Equity Network [Zero Health Gaps Pledge](#)」に署名した 39 の団体のうちの 하나가タケダであることにも反映されています。この署名の一環として、タケダは、自社の事業戦略、オペレーション、投資活動に健康の公平性を組み込むための主だった 10 のアクションに同意しています。つまり、自社のバリューチェーンとビジネスモデルの全体に健康の公平性を組み込むというタケダの姿勢は、この誓約によってさらに強化されることになります。企業は世界中のコミュニティで重要な役割を果たす存在です。だからこそ企業は、その活動全体に健康の公平性を浸透させることで、健康格差の解消と利益の底上げの両方を実現できるよう、検討を重ねる必要があると考えます。

武田薬品工業について

武田薬品工業株式会社は、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献することを目指しています。消化器系・炎症性疾患、希少疾患、血漿分画製剤、オンコロジー（がん）、ニューロサイエンス（神経精神疾患）、ワクチンといった主要な疾患領域および事業分野において、革新的な医薬品の創出に向けて取り組んでいます。パートナーとともに、強固かつ多様なパイプラインを構築することで新たな治療選択肢をお届けし、患者さんの生活の質の向上に貢献できるよう活動しています。

2023 年 6 月

出典：

- ¹ World Health Organization, Health Equity (2023)
- ² Centers for Disease Control and Prevention, Health Equity, What is Health Equity?(2023)
- ³ McCartney, G., et al., Defining Health and Health Inequalities. Public Health, 172, 22–30.(2019)
- ⁴ Renjen, P., Why ESG must include health equity, Deloitte Health Forward (2022)
- ⁵ World Health Organization Regional Office for Africa, A heavy burden: the productivity cost of illness in Africa.(2019)
- ⁶ Davis, A., et al.US health care can't afford health inequities, Deloitte Insights (2022)
- ⁷ Magnan, S., Social Determinants of Health 101 for Health Care:Five Plus Five.(2017)
- ⁸ World Health Organization, Social determinants of health, (2022).
- ⁹ Hood, C, et al.County health rankings:Relationships between determinant factors and health outcomes.American Journal of Preventive Medicine 2016 50(2):129-135.
- ¹⁰ U.S.Department of Health and Human Services, Health Equity in Healthy People 2030 (2021)
- ¹¹ United Nations, Half the world lacks access to essential health services – UN-backed report, (2017)
- ¹² World Health Organization, Access to medicines: making market forces serve the poor, (2017)
- ¹³ Owens, C., Nothaft, W., It's time to rethink how we advance health equity, Scientific American, (2022)